

9) 國永正臣と私立九州歯科医学校の創設

The foundation of Kyushu Dental College
and the founder Masaomi Kuninaga

九州歯科大学 竹原 直道

Tadamichi Takehara, Kyushu Dental College

九州歯科大学創設の礎を築いた國永正臣は、本来ならば大学の創設者として高く評価されて然るべきと思われるが、大学の歴史のなかでは不当にも等閑視されてきた。演者はこの國永の業績を発掘し、世に知らしむる必要を感じ調査を行ってきた。今回は歯科医院を経営しながら私立九州歯科医学校の創設、専門学校への昇格に取り組んだ國永の苦闘と、大正から昭和初期の九州歯科医専の学生運動について報告する。

國永は1910年（明治43）アメリカから帰国すると、当時繁栄を遂げていた福岡市東中洲で開業する。医業は盛況だったが歯科医学校創設の志を立て、1913年には九州歯科医学校設立を申請、認可を得るため活発に奔走した。その結果1914年（大正3）4月には因幡町（現在の天神）に私立九州歯科医学校を創立、校長に就任した。学校の経営は最初から困難を極めたが、國永の歯科医学教育への情熱熱し難く、1916年には第一回の卒業生を出している。卒業記念旅行の引率写真などに見る限り、学生との関係も良好であったと思われる。この頃の國永は、捕虜となっていたドイツ軍の青島総督ワルデックら将校団、また皇族伏見宮の診察をするなど臨床家として面目を施し、市の歯科医師会でも活躍している。しかし歯科医師試験の無試験認定校指定を得るためには専門学校への昇格が必須であった。更にそのためには、基準を満たす附属医院の設備も求められていた。しかも校地は電車軌道敷設のため移転を迫られていたのである。いくら盛業とはいえ、一歯科医院院長に過ぎない國永にとって、学校経営は重すぎる負担であった。その時現れたのが二代目校長となる清水精一であった。國永と清水は1921年、「学校設立ニ関スル契約」を登記。清水は貸家業を営む地元の資産家で、以後学校経営に深く関わっていく。同年専門学校への昇格は果たすが、二人の対立は

悪化の一途をたどる。学校を巡る教学と経営の対立は現在もよくある事だが、結局学校経営は利権なのである。しかもかかわった資産家にとっては虚栄心をも満足させるものであって、金銭勘定だけではない所が話を複雑にする。いずれにしてもこの経営を巡る対立は泥沼化して國永は窮地に立たされ、國永歯科も中洲大火（1923年）で類焼する。

その間学生の勉学条件は一向に改善されず、当時の社会情勢とも相俟って以後十年近い間、毎年のように学生のストライキ闘争が続くことになる。これは社会運動が勃興した大正末から昭和初期においても、全国的に突出した長期にわたる学生運動であったといえる。今後さらに研究を深めて行きたい。

10) 東洋歯科医学校創設から佐藤運雄校長を支えた名補佐役川合渉と中川大介両先生について

Great celebrated persons Dr Wataru Kawai
and Dr Daisuke Nakagawa from Toyo Dental
School to principal of Kazuo Sato

日本大学歯学部	工藤 逸郎
	三宅 正彦
	見崎 徹
	小室 歳信
	金山 利吉
	若松 佳子
	納村 晉吉
	篠田 宏司
	太田 肇
	下山 哲夫
	会田 卓久
	松江 高光

Itsuro Kudo, Masahiko Miyake, Tooru Misaki,
Toshinobu Komuro, Toshiyoshi Kanayama,
Yoshiko Wakamatsu, Shinkichi Namura, Kooji
Shinoda, Hajime Oota, Tetsuo Shimoyama,
Takuhi Aida and Takahikaru Matsue
Nihon University School of Dentistry

東洋歯科医学校を大正5年（1916）4月創設した佐藤運雄は本校を東洋歯科医学専門学校、日本大学専門部歯科、日本大学歯学部と発展させ現在

に至っている。佐藤の補佐役をして多くの人材が関わっているが、特に東洋歯科医学校創立時より関与した盟友の川合渉と中川大介は名補佐役として佐藤を支えていた。

今回は佐藤と両補佐役の概要について報告する。

三者共通の点についてはまず現在の東京歯科大学出身であること、すなわち、佐藤は明治 31 年 (1898) 7 月高山歯科医学院、川合は明治 39 年 (1906) 東京歯科医学院、中川は明治 41 年 (1908) 7 月東京歯科医学専門学校を各々卒業している。

第 2 には東京帝国大学医科大学歯科 (現在の東京大学医学部口腔外科学教室) に勤務後関連病院である南満州鉄道大連病院兼南満医学堂の医員として勤務したこと、すなわち佐藤は明治 41 年 (1908) 6 月現在の東大医学部口腔外科石原久教授の命を受け同病院歯科口腔外科医長、南満医学堂教授として赴任、川合も同じく佐藤と共に満鉄病院歯科口腔外科に赴任、中川も大正 2 年 (1913) 9 月から満鉄病院に勤務した。

第 3 には三者ともに東洋歯科医学校の創設発展に寄与したことである。

満鉄病院に勤務していた佐藤は明治 43 年 (1910) 6 月病気のため満州より帰国し、大正元年 (1912) 9 月正式に辞任した。佐藤は大正 5 年 (1916) 4 月に東洋歯科医学校を創設したが帰国した川合も学校創設と同時に東洋歯科医学校講師、幹事として学校創設に尽力した。

中川は大正 5 年 (1919) 9 月満鉄病院を辞任して 10 月東洋歯科医学校講師として帰任した。

この背景には佐藤が唱えた医歯一元論の考え方があり、それを実践しようとする意欲があったものと思われる。

川合、中川両氏は東洋歯科医学校の専門学校昇格に伴い、教授に任命され大正 11 年 (1922) 6 月日本大学に併合と同時に、引き続き日本大学専門部歯科教授となり川合は附属医院長に任命された。両者はその後も精力的に日本大学専門部歯科の充実発展に努力された。大正 15 年 (1926) 8 月日本大学歯科医学校 (夜間) の設置が認可され川合が校長に任命されている。

昭和 18 年 (1943) 5 月には中川は専門部歯科長に就任した。病気が回復した川合は昭和 23 年 (1948) 9 月最後の専門部歯科長兼附属医院長に任

命され、昭和 22 年 (1947) 6 月新制の日本大学歯学部設置が認可され、昭和 24 年 (1949) 4 月佐藤運雄の定年に伴い第 2 代日本大学歯学部長に就任した。

川合は昭和 27 年 (1952) 3 月定年で退任され 4 月には名誉教授の称号を授与されたが昭和 34 年 (1959) 1 月 20 日逝去された。享年 74 歳であった。

中川は昭和 28 年 (1953) 3 月定年で退任され、名誉教授の称号を授与されたが昭和 29 年 (1954) 12 月 28 日に逝去された。享年 67 歳であった。

佐藤は昭和 39 年 (1964) 1 月に逝去されているので川合はそれに先立つ約 5 年前、中川はその 10 年前に逝去されたことになる。

両者ともに佐藤を助けて学内のみならず同僚歯科医学専門学校、歯科大学、文部省、厚生省、歯科界にも多くの足跡を残された。

佐藤にとっては弟子であり盟友として苦楽をともにした両者の逝去は痛恨の極みであったことと思われる。その後の日本大学歯学部の発展は創設者の佐藤とともに川合、中川両氏の偉大なる補佐役の存在を見逃すことはできない。

11) 福岡県立医学歯学専門学校と東京医学歯学専門学校のカリキュラムの比較

The comparison of the curriculum of the Fukuoka prefectural medical and dental college and Tokyo medical and dental college

九州歯科大学 小林 繁
北九州市開業 上瀉口 武

Shigeru Kobayashi, Kyushu Dental College
Takeshi Kamigatakuchi, Kitakyushu City

福岡県立医学歯学専門学校と東京医学歯学専門学校は、昭和 19 年 4 月 1 日に既設の九州歯科大学専門学校と東京高等歯科医学専門学校に医学科を付設し、同時に歯科医学専門学校卒業生を医学科第 3 学年に入学せしめることとした 4 年制の専門学校である。東京医学歯学専門学校は同年 4 月 17 日・18 日、志願者 292 名に解剖学、生理学、病理学、薬理学、内科総論、外科総論の筆記試験と口答試験を行い 89 名に入学を許可した。一方、